

表 3-5-12. 介護による社会生活への負担感

(%)

		非常に あてはまる	少し あてはまる	あまりあて はまらない	まったくあて はまらない	無回答
お世話のために仕事に出られな い／良い仕事につけない／家 業が思うようにやれない	1998	15.0	17.4	20.3	47.4	0.0
	2002	15.2	20.3	20.7	43.6	0.2
お世話のために育児や家族の 世話に思うように手がまわら ない	1998	7.6	12.1	20.5	59.7	0.0
	2002	5.8	15.6	25.4	52.8	0.4
昼間、思うように外出できない	1998	39.2	24.2	18.9	17.6	0.0
	2002	26.5	33.8	22.2	17.1	0.4
趣味や学習活動などをする自 由な時間を思うようにとれない	1998	34.2	27.6	18.4	19.7	0.0
	2002	26.7	32.7	23.7	16.7	0.2
お世話のことで家族・親戚と意 見があわない	1998	4.7	13.2	21.1	61.1	0.0
	2002	3.4	8.6	25.4	62.4	0.2
お世話のために経済的負担が 大きい	1998	11.1	16.6	31.3	40.8	0.3
	2002	10.3	22.2	30.5	36.7	0.4

注) 主介護者が回答した場合に限定. 1998年 (n=380), 2002年 (n=532)

## 6) 介護者のサポートネットワークの変化

## (1) 介護を手伝ってくれる人 (手段的支援)

主介護者のサポートネットワークを、介護保険制度施行前後で比較した。

「主介護者のみが介護を担っているケース」は、1998年で30.7%、2002年で32.3%、「主介護者と副介護者のみで介護を担っているケース」は、それぞれ33.9%と42.4%で、介護を一人または二人で担っているケースが増加している。他方、主介護者と副介護者以外にも介護を手伝ってくれる人がいるケースは、1998年では34.4%であったが、2002年では22.7%に減少していた(表3-6-1)。

単身世帯や老夫婦世帯の増加、女性の就労率の増加などにより、家族で介護を担うことが困難な家庭が増えている。介護保険制度が施行された後も、家族介護の不足を補うほどにはホームヘルパーなどの利用が図られていないため、少ない介護者で介護を担わざるをえない傾向が、ますます強まっている可能性がある。

表 3-6-1. 介護を手伝ってくれる人 (%)

	1998 年	2002 年
主介護者なし	1.0	1.8
主介護者のみ	30.7	32.3
主介護者と副介護者のみ	33.9	42.4
それ以上介護者がいる	34.4	22.7
無回答	0.0	0.8
n	404	595

(2) 悩み事や心配事の相談にのってくれる人 (情緒的支援)

この半年間に心配事や悩み事があったとしても、同居の家族の中には聞いてくれた人が「いない」または「相談しなかった」という人は、1998 年で 32.4%、2002 年で 40.8%と、増加していた。同様に、「別居の親戚」「友人・知人・近隣」「医療・福祉の専門家」についても、心配事や悩み事を聞いてくれた人が「いない、または相談しなかった」という回答が増加していた(表 3-6-2)。

それぞれの人たちに対して「相談するべき心配事や悩み事がなかった」と答えた人の割合は、いずれも減少しているのに対し、相談できなかったと答えた人が増加している。このことから、介護者を精神的に支えるサポートネットワークは、介護保険制度施行後、脆弱になった可能性がある。

表 3-6-2. 心配事や悩み事を聞いてくれる人 (%)

		聞いた			
		いた	いない/ 相談しない	心配事や悩み 事がなかった	無回答
同居の家族の中に	1998	46.1	32.4	21.6	0.0
	2002	43.4	40.8	15.6	0.2
別居の親戚の中に	1998	46.1	28.9	25.0	0.0
	2002	36.3	47.9	15.4	0.4
知人・友人・近隣の中に	1998	36.6	35.0	28.4	0.0
	2002	39.5	44.4	16.0	0.2
医療・福祉の専門家の中に	1998	22.4	47.4	30.3	0.0
	2002	27.3	57.1	15.4	0.2

注) 主介護者が回答した場合に限定。1998 年 (n=380), 2002 年 (n=532)

(3) 介護の相談にのってくれる人（情動的支援）

お世話のことで相談にのってくれる人が「いない、または相談しない人」の割合は、「同居家族」「別居親族」「友人・知人・近隣」「市役所職員」「医療・福祉の専門家」のいずれにおいても増加していた（表 3-6-3）。介護保険制度が施行され、ケアマネジャーをはじめとする医療・福祉の専門家が介護者の相談にのり、情報を提供する割合は高まっていることが期待されたが、実際には医療や福祉の専門家に相談したいことがあるにもかかわらず、相談できずにいる人は 46.6%と、措置の時代よりも増えていた。

表 3-6-3. お世話のことで相談にのってくれる人 (%)

		いた	いない/ 相談しない	相談事が なかった	無回答
同居の家族の中に	1998	41.1	39.7	19.2	0.0
	2002	37.0	49.6	13.2	0.2
別居の親戚の中に	1998	41.6	36.1	22.4	0.0
	2002	32.1	54.3	13.3	0.2
知人・友人・近隣の中に	1998	23.7	48.7	27.6	0.0
	2002	27.1	59.0	13.7	0.2
市役所の職員の中に	1998	14.2	57.6	27.6	0.5
	2002	8.3	76.5	14.7	0.6
医療・福祉の専門家の中に	1998	48.9	30.0	21.1	0.0
	2002	40.2	46.6	13.0	0.2

注) 主介護者が回答した場合に限定。1998年 (n=380), 2002年 (n=532)

医療・福祉の専門家の中にお世話のことで相談にのってくれる人がいると答えた介護者に、それはどのような職種の専門家なのかをたずねた。「医師」をあげる人が依然として最も多いものの、2002年では「ケアマネジャー」をあげる人も 50.9%と多かった（表 3-6-4）。介護者の相談相手としてケアマネジャーが果たす役割は大きいといえる。しかし、上記の表にも示したように、医療・福祉の専門家に相談したいことがあっても相談できずにいる介護者の割合は、介護保険制度施行前よりも増えている。今後、ケアマネジャーをはじめとする医療・福祉の専門家の相談機能を強化することが、早急に必要である。

表 3-6-4. 相談できる専門家 (%)

	1998 年	2002 年
医師	73.1	63.6
保健師	5.9	2.8
看護師	22.6	22.0
理学・作業・言語療法士	2.2	5.6
栄養士	1.1	1.4
ソーシャルワーカー・ケースワーカー	19.9	4.2
ホームヘルパー	5.9	16.8
ケアマネジャー	—	50.9
その他	7.0	2.3
n	186	214

注)「医療・福祉の専門家の中にお世話の相談にのってくれる人がいる」と  
 答えた人に対して、その職種をたずねた。

1998 年は「ケアマネジャー」を選択肢にあげていない。

## 4. 介護者からみた在宅サービスの利用に関連するプロセスの評価

### 1) 認定申請

#### (1) 在宅要介護高齢者の認定申請状況

在宅要介護高齢者の8割は認定申請していたが、2割は要介護であるにもかかわらず、認定申請していなかった(表4-1-1)。未申請者の家族・親族に申請していない理由をたずねた結果、「必要を感じない」が最も多かったが(49.6%)、「手続きがわからない、制度を知らない」という人も13.7%いた(表4-1-2)。

表4-1-1. 在宅要介護高齢者の認定申請率 (n=595)

	%
申請	79.7
未申請	20.3

表4-1-2. 未申請の理由(介護者回答) (複数回答) (n=117)

	%
手続きがわからない・制度を知らない	13.7
相談窓口まで行くことができない	1.7
自己負担があるので使いたくない	2.6
認定を受けることに抵抗がある	7.7
必要を感じない	49.6
その他	20.5

注) 未申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

#### (2) 未申請者の特性

ADL障害や認知能力障害の重症度別に申請状況を調べた。ADL障害がない(すなわち認知能力障害のみの)場合は未申請者が48.5%で、ADL障害が重くなるにつれて未申請者は減少したが、ADL障害が重度であっても未申請者は5.3%いた(表4-1-3)。

認知能力障害がない(ADL障害のみの)場合は未申請者が20.4%、軽度の痴呆で28.3%、中度の痴呆で19.0%、重度の痴呆であっても9.7%は申請していなかった(表4-1-4)。

ADL障害と認知能力障害の組み合わせ別に申請状況を調べると、「ADL障害がなし・軽度」の場合は、認知能力障害の重症度にかかわらず、35%前後が申請していなかった。

他方、「ADL障害が中度・重度」になると「認知能力障害がなし・軽度」であっても未申請者は10.1%まで減少した。「ADL障害、認知能力障害ともに中度か重度」であっても、未申請者が4.2%いた(表4-1-5)。

表 4-1-3. 在宅要介護高齢者のADL障害と申請状況(%)

	申 請	未申請	n
ADL障害なし	51.5	48.5	66
軽度	69.6	30.4	217
中度	89.5	10.5	124
重度	94.7	5.3	188

表 4-1-4. 在宅要介護高齢者の認知能力障害と申請状況(%)

	申 請	未申請	n
認知障害なし	79.6	20.4	250
軽度痴呆	71.7	28.3	120
中度痴呆	81.0	19.0	153
重度痴呆	90.3	9.7	72

表 4-1-5. ADL障害と認知能力障害の重なり方と申請状況(%)

	申 請	未申請	n
ADL障害なし・軽度／痴呆なし・軽度	66.2	33.8	201
ADL障害なし・軽度／痴呆中度・重度	63.4	36.6	82
ADL障害中度・重度／痴呆なし・軽度	89.9	10.1	169
ADL障害中度・重度／痴呆中度・重度	95.8	4.2	143

世帯構成別に申請状況を調べた。単身世帯は9割が申請しており、同居者がいる世帯よりも申請率は高かった。しかし1割弱は未申請であり、単身世帯の要介護高齢者の中に、介護保険制度の網からもれている人がいることがわかった(表4-1-6)。

所得段階との関連では、第三段階が最も未申請者が多く(24.5%)、次いで第五段階(22.8%)であった。第一、第二、第四段階における未申請者割合は16~18%と類似しており、所得段階の高低と未申請率との関連は、明確には見出せなかった(表4-1-7)。

表 4-1-6. 在宅要介護高齢者の世帯構成と申請状況(%)

	申 請	未申請	n
単身世帯	91.5	8.5	71
高齢者夫婦のみ	78.7	21.3	150
子供と同居	77.2	22.8	346
その他	85.7	14.3	28

表 4-1-7. 在宅要介護高齢者の所得段階と申請状況 (%)

	申 請	未申請	n
第 1 段階	82.6	17.4	23
第 2 段階	82.5	17.5	223
第 3 段階	75.5	24.5	212
第 4 段階	83.8	16.3	80
第 5 段階	77.2	22.8	57

## 2) 認定結果

### (1) 在宅要介護高齢者の介護度の分布

スクリーニング後の訪問面接調査で、「在宅要介護高齢者」と判定された人の認定状況を示した(表 4-2-1)。要介護1から5までほぼ同じ分布であった。今回の調査で在宅要介護高齢者と判定した人の中では、申請したが自立(非該当)とされた人は0.3%であった。

今回の調査で調べた身体・認知機能障害のレベルと認定結果との関連を調べた(表 4-2-2)。認定結果では「自立」と判定されたものの、今回の調査では「ADL障害、認知能力障害ともに中度か重度」という状態の人が少数ながらいた。ADL障害が中度から重度の場合は、総じて介護度も重くなるが、認知能力障害が中度から重度であっても、ADL障害が軽い場合は、要介護度は軽くなる傾向がみられた。

表 4-2-1. 在宅要介護高齢者の認定状況 (n = 595)

	%
未申請	20.3
自立	0.3
要支援	2.0
要介護1	17.0
要介護2	18.7
要介護3	15.0
要介護4	12.9
要介護5	13.8

表 4-2-2. 在宅要介護高齢者の介護度と身体・認知機能障害 (%)

	ADL 障害なし・軽度 認知障害なし・軽度	ADL 障害なし・軽度 認知障害中度・重度	ADL 障害中度・重度 認知障害なし・軽度	ADL 障害中度・重度 認知障害中度・重度	n
自立	0.0	0.0	0.0	100.0	2
要支援	83.3	8.3	8.3	0.0	12
要介護1	62.4	21.8	11.9	4.0	101
要介護2	38.7	17.1	29.7	14.4	111
要介護3	14.6	6.7	42.7	36.0	89
要介護4	5.2	5.2	44.2	45.5	77
要介護5	0.0	0.0	41.5	58.5	82

(2) 認定結果に対する介護者の満足度

認定申請者の家族に、認定結果に対する満足度を質問した。「非常に満足」「わりと満足」をあわせると、75.4%は満足という評価をしていた。「あまり満足していない」「全然満足していない」と答えた人は、合わせて13.5%であった(表4-2-3)。

「あまり満足していない」「全然満足していない」と答えた人に、その理由をたずねた。「身体状況に比べて認定結果が軽すぎる」という人が最も多く(64.9%)、「痴呆の状態を反映していない」という意見は12.3%であった(表4-2-4)。

認定結果別に満足度の状況を調べた。「非常に満足」「わりと満足」を合わせた割合は、自立で0%、要支援で57.1%、要介護1～3で70～74%、要介護4で82.2%、要介護5で86.1%と、介護度が重く判定されるほど満足度が高まる傾向がみられた(表4-2-5)。

表 4-2-3. 認定結果に対する介護者の満足度 (n = 424)

	%
非常に満足	17.9
わりと満足	57.5
あまり満足していない	11.1
全然満足していない	2.4
わからない	11.1

注) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。



表 4-2-4. 不満足な点(介護者回答) (複数回答) (n=57)

	%
身体の状態に比べ、要介護認定結果が軽すぎる	64.9
身体の状態に比べ、要介護認定結果が重すぎる	3.5
痴呆の状態を反映していない	12.3
その他	29.8

注1) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

注2) 「あまり満足していない」「全然満足していない」と答えた人に限定。

表 4-2-5. 在宅要介護高齢者の介護度と認定結果に対する介護者の満足度 (%)

	非常に満足	わりと満足	あまり満足 していない	全然満足 していない	わからない	n
自立	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	2
要支援	0.0	57.1	0.0	0.0	42.9	7
要介護1	17.3	53.1	14.8	0.0	14.8	81
要介護2	6.1	67.7	16.2	2.0	8.0	99
要介護3	8.4	61.4	14.5	2.5	13.2	83
要介護4	17.8	64.4	6.9	1.4	9.5	73
要介護5	45.6	40.5	2.5	5.1	6.3	79

注) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

### 3) ケアマネジャー・ケアプラン

#### (1) ケアマネジャーの利用状況と介護者の評価

認定申請者の家族にケアマネジャーの利用についてたずねた。「相談にのってもらったことがある」は 78.1%と多いが、「相談したことがない」「ケアマネジャーが何か知らない」という回答も、それぞれ 14.9%と 2.8%いた (表 4-3-1)。

「ケアマネジャーに相談にのってもらったことがある」と答えた人に、ケアマネジャーについて評価してもらった。93.7%の人が「相談に親身になって耳をかたむけてくれた」と評価していた。「介護保険で利用できるサービス」「契約書の内容」「サービス利用料」「ケアプランが変更できること」については、8割前後の家族がケアマネジャーから紹介・説明を受けていた。しかし、「2つ以上の事業者を教えてくれた」は 55.9%、「サービス利用後、ケアマネジャーから問い合わせがあった」は 52.6%と、半数程度にとどまった。「説明もなく、勝手にサービスを入れる」というケースも、数は少ないものの 9.1%みられた (表 4-3-2)。

表 4-3-1. ケアマネジャーの利用(介護者回答) (n = 424)

	%
相談にのってもらったことがある	78.1
制度は知っていたが、相談したことがない	14.9
ケアマネジャーが何か知らない	2.8
わからない	4.2

注) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定.

表 4-3-2. ケアマネジャーに対する介護者の評価 (%) (n = 331)

	はい	いいえ	わからない
相談に親身になって耳を傾けてくれた	93.7	2.7	3.6
2つ以上の事業者を教えてくれた	55.9	26.6	17.5
説明もなく、勝手にサービスを入れることがある	9.1	87.3	3.6
介護保険で利用できるサービスを紹介してくれた	85.5	7.6	6.9
ケアプランの変更ができることをわかりやすく説明してくれた	76.1	14.8	9.1
サービス利用の際、契約書の内容についてわかりやすく説明してくれた	80.1	11.2	8.8
サービス利用料について、わかりやすく説明してくれた	76.7	12.7	10.6
実際にサービスを利用し始めてから、ケアマネジャーから問い合わせがあった	52.6	38.7	8.8

注 1) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定.

注 2) 「相談にのってもらったことがある」と答えた人に限定.

## (2) ケアプランの作成と介護者の評価

認定申請者の家族に、ケアプランを誰が中心となって作成したかをたずねた。「自分たち(家族・本人)と相談しながら、ケアマネジャーが中心となって作った」というケースが最も多く(35.6%)、次いで「ケアマネジャーと相談しながら、自分たちが中心になって作った」というケースだった(21.7%)。これらと「家族や本人が作成」の3.1%と合わせると、60.4%はケアプラン作成に家族や本人が関わっていた。他方、「ケアマネジャーに一任」というケースが14.6%、「どのように作られたか知らない」「作成していない」「わからない」という人も、合わせて25.0%いた(表4-3-3)。

ケアプランを作成した人に、ケアプランに対する満足度をたずねた。「非常に満足」「わりと満足」を合わせると、89.1%の人がケアプランに満足していた。他方、ケアプランを

作成した人の 10.3%は、「あまり満足していない」「全然満足していない」と評価していた（表 4-3-4）。

表 4-3-3. ケアプランの作成者(介護者回答) (n = 424)

	%
ケアマネジャーに一任	14.6
自分たちと相談しながら、ケアマネジャーが中心	35.6
ケアマネジャーと相談しながら、自分たちが中心	21.7
家族や本人が作成	3.1
どのように作られたか知らない	2.8
作成していない	13.9
わからない	8.3

注) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

表 4-3-4. ケアプランに対する介護者の満足度 (n = 330)

	%
非常に満足	22.4
わりと満足	66.7
あまり満足していない	7.6
全然満足していない	2.7
わからない	0.6

注 1) 認定申請者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

注 2) 「作成していない」「わからない」と答えた人は除外。

#### 4) サービスの過少利用

##### (1) 支給限度額対比の利用割合

支給限度額に対する在宅サービス利用額の割合（以下、利用割合）によって、「過少利用の程度」を評価した。具体的には、在宅サービスを「在宅サービス全体」「訪問・通所サービス」「短期入所」の3つに区分し、それぞれの利用割合の実態と関連要因をみることにした。「短期入所」には「短期入所生活介護」と「短期入所療養介護」の2つが含まれている。ただし、「在宅サービス全体」および「訪問・通所サービス」については、「居宅介護支援」「特定施設生活介護」「グループホーム」は除いた。分析対象は認定結果が出ている人に限定し、利用実績については2002年の5月のものとした。

利用割合の分布をみると、「在宅サービス全体」では、「まったく利用していない人」が40.6%、「1～19%」が10.2%、「20～39%」が14.7%であり、6割以上の人々が40%以下の利用割合であった。特に「短期入所」の利用割合が低く、「まったく利用していない人」が91.9%を占めていた（表4-4-1）。

表 4-4-1 支給限度額に対する利用額の割合 (%) (n = 795)

支給限度額対比の利 用額の割合	在宅サービス 全体	訪問・通所 サービス	短期入所
0%	40.6	41.0	91.9
1～19%	10.2	11.7	1.5
20～39%	14.7	17.7	3.8
40～59%	10.7	9.9	1.9
60～79%	9.9	8.4	0.5
80～100%	10.9	8.6	0.4
100%以上	2.9	2.6	0.0

## (2) 利用割合の関連要因

利用割合に関連する要因を、「介護度」「身体・認知機能障害」「家族構成」「保険料段階」について分析してみた。

介護度との関連では、「在宅サービス全体」および「訪問・通所サービス」については、一定の傾向がみられなかった。「短期入所」については、要介護度が高くなるに伴って「利用割合」が増加する傾向がみられた（表4-4-2）。

「身体・認知機能障害」との関連では、「在宅サービス全体」「短期入所」については、身体障害や認知機能障害が「なし」で最も利用割合が低く、「中度」「重度」となるに従って、利用割合が高くなる傾向にあった。「訪問・通所サービス」については、身体障害や認知障害のいずれとも一定の関連はみられなかった（表4-4-3）。

表 4-4-2 要介護度別にみた支給限度額対比の平均利用割合

要介護度	支給限度額対比の平均利用割合 (%)			n
	在宅サービス 全体	訪問・通所 サービス	短期入所	
要支援	32.6	32.6	0.0	25
要介護1	26.6	26.2	0.3	168
要介護2	35.0	32.0	3.0	168
要介護3	25.9	22.2	3.6	140
要介護4	30.9	28.5	2.4	145
要介護5	34.7	29.2	5.5	149
合計	30.8	27.9	2.8	795

表 4-4-3 支給限度額対比の利用割合と身体・認知機能障害との関連

	支給限度額対比の平均利用割合 (%)			n
	在宅サービス 全体	訪問・通所サ ービス	短期入所	
<b>身体機能</b>				
ADL 障害なし	33.8	33.8	0.0	34
軽度	35.8	34.8	1.0	151
中度	39.6	35.8	3.8	109
重度	48.9	42.8	6.0	178
<b>認知機能</b>				
痴呆なし	40.2	38.8	1.4	199
軽度痴呆	38.8	36.6	2.2	86
中度痴呆	43.2	37.6	5.5	122
重度痴呆	45.5	38.0	7.4	65
合計	41.5	38.0	3.4	472

家族構成との関連をみると、「在宅サービス全体」の利用割合は、私的な支援が乏しい「単身」世帯では60%程度で、「高齢者夫婦」「子供と同居」世帯の割合（それぞれ40%程度）と比較して20%程度高かった。サービスの種類別にみると、「訪問・通所サービス」は「在宅サービス全体」と同じような傾向であったが、「短期入所」は「訪問・通所サービス」と傾向を異にしており、「単身」世帯では利用がほとんどなく、「子供との同居」世帯で5.0%と「単身」世帯よりも利用割合が高かった（表4-4-4）。

表 4-4-4 支給限度額対比の利用割合と家族構成との関連

家族構成	支給限度額対比の平均利用割合 (%)			n
	在宅サービス	訪問・通所	短期入所	
	全体	サービス		
単身	56.3	56.3	0.0	64
高齢者夫婦のみ	39.1	37.2	2.0	117
子供と同居	38.9	33.8	5.0	267
その他	41.9	39.2	2.6	24
合計	41.5	38.0	3.4	472

最後に、保険料段階との関連についてみてみよう。「在宅サービス全体」「訪問・通所サービス」の利用割合はそれぞれ、「第1段階」で約50%と最も高く、その他の段階では30%程度であった（表4-4-5）。

表 4-4-5 支給限度額対比の利用割合と保険料段階との関連

所得段階	支給限度額対比の平均利用割合 (%)			n
	在宅サービス	訪問・通所	短期入所	
	全体	サービス		
第1段階	46.1	45.4	0.7	30
第2段階	28.5	27.0	1.5	345
第3段階	33.1	28.9	4.1	242
第4段階	28.2	23.2	5.0	99
第5段階	30.6	28.3	2.3	79
合計	30.8	27.9	2.8	795

## 5) サービスの選択の多様化

介護保険制度の基本理念のひとつとして、介護サービスの選択の多様化があげられている。果たしてその理念は、実現しただろうか。

ホームヘルパー、巡回入浴サービス、訪問介護について、各サービスの利用者の家族に2つ以上の事業者から選べたか否かを質問した。「2つ以上の事業者から選べた」という人は、ホームヘルパーで最も多く（31.3%）、巡回入浴（24.5%）、訪問看護（19.8%）の順であった（表4-5-1）。しかし、いずれのサービスについても、半数の人は「2つ以上の事業者から選ぶことは考えていなかった」と答えており、多様な事業者の中から選択できる

(選択する) という意識が、利用者に根付いていないことがうかがえる。

表 4-5-1. 主なサービスの事業者選択状況(介護者回答) (%)

	2つ以上の事業者から選べた	2つ以上の事業者から選びたかったが、選べなかった	2つ以上の事業者から選ぶことは考えていなかった	わからない	無回答	n
ホームヘルパー	31.3	9.1	42.4	14.6	2.5	198
巡回入浴サービス	24.5	9.4	47.2	15.1	3.8	53
訪問看護	19.8	5.8	52.3	17.4	4.7	86

注) 各サービスの利用者のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

## 6) サービス利用料に対する介護者の負担感

### (1) 介護者の利用料に対する負担感

サービス利用料を支払っている家族に、利用料が家計にとってどの程度負担かをたずねた。「非常に負担」または「多少負担」と答えた人は 39.7%、「あまり負担ではない」または「まったく負担ではない」と答えた人は 60.4%であった(表 4-6-1)。

表 4-6-1. 介護者のサービス利用料に対する負担感 (n = 338)

	%
非常に負担である	8.9
多少負担である	30.8
あまり負担でない	43.5
まったく負担ではない	16.9

注) 利用料を支払っている家族・親族の回答に限定。

### (2) 介護者の利用料に対する負担感の関連要因

要介護高齢者の所得段階と介護者の利用料に対する負担感との関連を調べた。「非常に負担」または「多少負担」と答えた人の割合は、第1段階で 30.0%、第2段階で 36.2%、第3段階で 45.9%、第4段階で 46.9%、第5段階で 21.9%であった(表 4-6-2)。このことから、第1段階から第4段階までは、所得段階が高くなるほど利用料を負担に感じる家族が多く、第5段階では負担に感じる人が少ないといえる。

表 4-6-2. 介護者のサービス利用料に対する負担感と要介護高齢者の所得段階(%)

	非常に 負担	多少負担	あまり負担 ではない	まったく負担 ではない	n
第1段階	20.0	10.0	60.0	10.0	10
第2段階	10.2	26.0	44.1	19.7	127
第3段階	8.2	37.7	41.0	13.1	122
第4段階	4.3	42.6	38.3	14.9	47
第5段階	9.4	12.5	53.1	25.0	32

注) 利用料を支払っている家族・親族の回答に限定。

高齢者の要介護度別に家族の利用料に対する負担感を調べた。「非常に負担」または「多少負担」と答えた家族は、要支援で0.0%、要介護1で24.6%、要介護2で29.9%、要介護3で36.0%、要介護4で52.4%、要介護5で53.7%であった(表4-6-3)。このことから、高齢者の要介護度が重くなるに従って、家族の利用料に対する負担感が高まり、要介護4と5では、半数の家族が家計への負担を感じていることがわかった。

表 4-6-3. 介護者のサービス利用料に対する負担感と要介護高齢者の介護度(%)

	非常に 負担	多少負担	あまり負担で はない	まったく 負担ではない	n
要支援	0.0	0.0	33.3	66.7	3
要介護1	3.8	20.8	56.6	18.9	53
要介護2	2.6	27.3	41.6	28.6	77
要介護3	9.4	26.6	43.8	20.3	64
要介護4	13.1	39.3	44.3	3.3	61
要介護5	14.9	38.8	35.8	10.4	67

注) 利用料を支払っている家族・親族の回答に限定。

要介護高齢者の家族構成と介護者のサービス利用料に対する負担感との関連を調べた。「非常に負担」または「多少負担」と答えた人は、単身世帯で34.8%、高齢者夫婦のみの世帯で35.7%、子供と同居している世帯で42.9%であった(表4-6-4)。これは家族の負担感なので、高齢者本人の負担感では結果が異なる可能性があるが、家族の負担感に関していえば、高齢者と子供が同居している世帯ほど、サービス利用料を負担に感じる人が多い傾向がみられた。



表 4-6-4. 介護者のサービス利用料に対する負担感と要介護高齢者の家族構成(%)

	非常に 負担	多少負担	あまり負担で はない	まったく負担 ではない	n
単身	8.7	26.1	56.5	8.7	23
高齢者夫婦のみ	2.4	33.3	39.3	25.0	84
子供と同居	10.7	32.2	42.5	14.5	214
その他	17.6	5.9	58.8	17.6	17

注) 利用料を支払っている人のうち、家族・親族が回答した場合に限定。

## 7) 介護者のサービス満足度とサービス利用に関する意識

### (1) ショートステイ

ショートステイを利用したことがある、または現在利用中の高齢者の介護者に、満足度をたずねた(表 4-7-1)。「非常に満足」と「やや満足」を合わせると、78.3%の介護者が全体的に満足していた。個別の項目では、「施設の職員の対応(非常に満足とやや満足の合計 79.1%)」「施設での世話の内容(同 76.2%)」「費用負担(同 74.9%)」は満足度が高かったが、「施設までの送迎(同 53.9%)」や「日数や回数(同 63.7%)」は、半数程度の人しか満足していなかった。

表 4-7-1. 介護者のショートステイに対する満足度 (%) (n=143)

	非常に 満足	やや 満足	やや 不満	非常に 不満	わから ない	無回答
施設での世話の内容	25.9	50.3	10.5	2.8	7.7	2.8
日数や回数	21.7	42.0	21.0	6.3	5.6	3.5
費用負担	25.2	49.7	12.6	4.9	4.9	2.8
施設の職員の対応	41.3	37.8	9.8	3.5	4.2	3.5
施設までの送迎	21.0	32.9	19.6	9.8	11.2	5.6
全体的	20.3	58.0	14.0	2.8	2.1	2.8

注) 「ショートステイを利用したことがある(現在利用者含む)」人に限定。

次に、ショートステイの利用の有無に関わらず、すべての介護者に対して、ショートステイの利用に関する意識をたずねた(表 4-7-2)。「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も多かったのは、「本人や私自身にとって役に立つ(72.2%)」という意見だったが、「本人が不安がる(57.7%)」という意見も半数以上を占めた。25.9%は「短期間とはいえ、他人

に世話を任せるのは不安」と感じていた。

表 4-7-2. 介護者のショートステイに対する意識 (%) (n = 552)

	そう思う	まあそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	わから ない	無回答
短期間とはいえ、他人に 任せるのは不安	10.0	15.9	33.7	32.2	6.9	1.3
本人が不安がる	34.1	23.6	17.6	15.2	8.3	1.3
近所や親戚にどのように 思われるか気になる	1.8	4.2	20.1	67.8	4.9	1.3
本人や私自身にとって 役に立つ	42.9	29.3	8.9	4.7	12.9	1.3

注) 家族・親族が回答した場合に限定。

## (2) ホームヘルパー

ホームヘルパーを現在利用している介護者に、満足度をたずねた (表 4-7-3)。「非常に満足」と「やや満足」を合わせると、89.9%の介護者が全体的には満足していた。個別の項目で満足度が高かったのは、「ヘルパーとの人間関係 (非常に満足とやや満足の合計 90.4%)」「派遣の時間帯 (同 88.9%)」「お世話の内容 (同 86.8%)」で、すべての項目について8割程度の満足度が得られていた。

表 4-7-3. 介護者のホームヘルパーに対する満足度 (%) (n = 198)

	非常に 満足	やや満足	やや不満	非常に 不満	わから ない	無回答
ヘルパーとの人間関係	48.5	41.9	2.5	0.5	5.1	1.5
お世話の内容	42.9	43.9	8.1	0.5	3.0	1.5
派遣の回数	37.9	41.9	15.2	0.5	3.0	1.5
費用負担	36.9	40.9	8.1	2.0	9.6	2.5
派遣の時間帯	46.0	42.9	6.1	0.0	3.0	2.0
全体的	35.9	54.0	4.0	0.5	3.0	2.5

注) ホームヘルパーを現在利用している人に限定。

利用していない介護者も含めて、ホームヘルパーに対する意識をたずねた (表 4-7-4)。「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると、「本人や私自身にとって役に立つ (78.6%)」という意見が最も多いが、「きちんとした人が来てくれるかどうか心配である (68.0%)」「他人に家の中に入られると、かえって気を使い、疲れる (48.0%)」との意見も多かった。

表 4-7-4. 介護者のホームヘルパーに対する意識 (%) (n = 552)

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	わからない	無回答
他人から家の中のことに口を挟まれるのはわずらわしい	15.8	24.1	31.5	23.7	3.8	1.1
世話は自分の役割だから他人に任せるのは気が進まない	8.2	17.6	38.2	32.6	2.4	1.1
他人に家の中に入られると、かえって気を使い疲れる	16.5	31.5	27.7	19.7	3.6	0.9
きちんとした人が来てくれるかどうか心配である	31.2	36.8	16.3	10.7	4.2	0.9
近所や親戚にどのように思われるか気になる	2.4	3.3	27.9	63.6	2.0	0.9
他の家族が世話を他人に任せることを好まない	5.3	7.6	24.6	56.5	4.7	1.3
本人が他人から世話されることを好まない	20.7	18.1	24.5	30.6	5.3	0.9
派遣される人のスケジュールに振り回され、時間が拘束される	12.3	21.4	28.6	26.4	10.3	0.9
本人や私自身にとって役に立つ	47.1	31.5	7.8	2.9	9.6	1.1

注) 家族・親族が回答した場合に限定。

### (3) 通所サービス (デイサービス・デイケア)

通所サービス利用者の家族に、満足度をたずねた (表 4-7-5)。「非常に満足」と「やや満足」を合わせると、95.4%の家族が全体的に満足していた。個別の項目も、「施設職員の対応 (93.6%)」「施設までの送迎 (91.3%)」「施設での世話の内容 (89.6%)」については 9 割程度が満足と答えており、最も満足度が低い「回数」についても 75.2%は満足していた。

表 4-7-5. 介護者の通所サービスに対する満足度 (%) (n = 173)

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
施設での世話の内容	48.6	41.0	4.0	0.6	5.2	0.6
回数	27.2	48.0	22.0	0.6	1.7	0.6
費用負担	26.0	53.8	13.9	0.0	5.2	1.2
施設職員の対応	54.9	38.7	2.3	0.0	3.5	0.6
施設までの送迎	55.5	35.8	3.5	1.2	2.3	1.7
全体的	41.6	53.8	1.7	0.0	1.7	1.2

注) 通所サービスを現在利用している人に限定。

通所サービスを利用していない介護者も含めて、通所サービスに対する意識をたずねた（表 4-7-6）。他のサービス同様、「本人や私自身にとって役に立つ」という意見が最も多く、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると 76.3%の人がそのように感じていた。他方、「本人が出かけようという気持ちになるかどうか問題だ（64.6%）」「送り迎えや、送迎サービスがあるかどうか問題だ（48.7%）」「本人にあったサービスを受けられるか不安（46.8%）」といった懸念を持つ家族も少なくなかった。

表 4-7-6. 介護者の通所サービスに対する意識 (%)

(n = 552)

	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	わから ない	無回答
本人が出かけようという気持ちに なるかどうか問題だ	47.8	16.8	11.8	15.9	6.2	1.4
送り迎えや、送迎サービスがある かどうか問題だ	31.7	17.0	15.8	27.0	6.9	1.6
近所や親戚にどのように思われ るかが気になる	0.5	2.9	19.6	72.6	2.9	1.4
本人にあったサービスを受けられ るかが不安	21.4	25.4	19.7	24.6	7.2	1.6
本人や私自身にとって役に立つ	48.6	27.7	8.0	4.0	10.3	1.4

注) 家族・親族が回答した場合に限定。

#### (4) 訪問看護サービス

訪問看護サービスを利用している介護者に、満足度をたずねた（表 4-7-7）。

「非常に満足」と「やや満足」を合わせると、91.9%の介護者が全体的に満足していた。個別の項目では、「派遣の回数（94.2%）」「看護婦との人間関係（91.9%）」「派遣の時間帯（90.7%）」について高い満足が得られており、最も満足度が低かった「費用負担」についても 75.6%は満足しており、おおむね高い満足が得られているといえる。